

平成27年度第2回泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 議事録

[事務局 石橋]

本会議にご出席賜り誠にありがとうございます。本日もどうぞよろしくお願いを致します。

一同 お願いします。

[事務局 石橋]

本会議につきましては、戦略会議規則第6条第2項の規定によりまして、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができないとなっております。本日は委員20名のうち、16名の方が出席されていますので、会議は成立しておりますことを報告させていただきます。なお、飯田委員、および岡本委員につきましては所要のため出席できない旨、事前にご連絡いただいております。また、徳田委員はちょっと急用によりまして、少し遅れるとご連絡をいただいております。栗本委員につきましても、きょう連絡取っていますので、追っ付け来られるかなと思いますのでよろしくお願い致します。

続きまして、第1回会議を都合により欠席されておりましたオブザーバーをご紹介します。三井住友銀行岸和田エリア支店長、高原克哉様でございます。

(高原オブザーバー)

高原でございます。どうぞよろしくお願い致します。

一同 お願いします。

[事務局 石橋]

では続きまして、資料の確認をさせていただきます。まず1枚目に次第がございます。皆さまお持ちいただいているということよろしいでしょうか。資料1としまして、『大阪府人口ビジョン』の骨子案。資料2としまして、『大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略』の骨子案。資料3としまして、アンケート調査の実施についてと題しましたA4、1枚もの。資料4としまして、一般市民を対象としたアンケート調査。資料5としまして、高校生世代を対象としたアンケート。資料6としまして、中学生を対象としたアンケート。資料7としまして、転出転入者対象のアンケート。資料8としまして事業者を対象としたアンケート。資料9としまして、第1回戦略会議の議事録となっております。

その他に、本日配布させていただいております資料としまして、泉佐野市の人口の現状等をグラフにしたカラー刷の資料。最後に、座席表となっております。資料は以上のおりとなっておりますが不足等ございませんか。そうしましたら、この後の議事進行につきましては吉村会長にお願いしたいと思います。吉村会長よろしくお願ひ致します。

(吉村会長)

それでは会議を始めさせていただきます。本日、この種の会ですと、大抵お暑い中と言うのがお決まりですけれども、きょうは不思議な天気の中、またお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。これから第2回泉佐野市の『まち・ひと・しごと創生総合戦略会議』を開催させていただきます。

前回は趣旨の説明と、国の総合戦略等について説明をいただいた後、佐野市の現状につきまして、皆さまからご意見を頂戴したという流れで進めさせていただきました。議事録につきましては資料の 9 とし て付いたとおりでございまして、細かな点をご確認いただくと致しまして、本日の案件はお手元の議事 次第というふうになっております。

特に市民アンケートについてはこの後、皆さんがたでぜひ関連なご議論いただきまして、より良いア ンケートに修正をした上で実施をしたいというふうに考えております。それではまず 1 点目ございま すが、『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に関する国、および大阪府の状況につきまして、事務局の ほうからご説明お願い致します。

#### [事務局 道下]

国、府の状況等ということでございますが、国については、ご説明したとおりで、市町村の総合戦略 策定に関して新たな動きは今のところございません。一方大阪府でございますが、われわれ市町村に対 しての府の考え方を示す説明会がさる 5 月の 21 日に開催されまして、ここにある資料 1 と 2、これを 基に説明がございました。その説明会に私、出席しましたので、その内容について私のほうからご説明、 簡単にご説明したいと思います。まず、資料 1 のほうをご覧ください。『大阪府人口ビジョン』骨子案 となっております。なお、この資料は府の事務局サイドが素案として作成したもので、6 月下旬開催予 定の府のこうした戦略会議、これの資料のたたき台的なものやというふうに伺っていますので、あくま でもご参考としてご覧いただきたいと思ひます。

資料を開いていただいて、右下に四角で囲った数字がございまして、これがページ数を示してありま して、見開き 4 ページの縮小表示となっております。それで、5 ページの 1、はじめに、の二つ目の丸 印の所ですが、大阪府においても国の長期ビジョンや人口減少白書をベースに将来、2040 年にあるべ き人口水準を見通し、それに向かって着実に取り組みを進めていくことが求められていますと。つけこ みまして、その下ですが、このビジョンでは 2015 年、平成 27 年から 2040 年、平成 52 年を見通して います、としております。ページをめくっていただいて、7 ページになりますが、2. 大阪府の人口の潮 流、(1) 総人口、人口総数の推移でございまして、グラフのように平成 22 年の 887 万人をピークに 2040 年には 750 万人、その先ですけれども、2060 年には 600 万人程度まで減少する可能性があるとしており ます。

次に 8 ページのグラフですけれども、3 本の折れ線グラフの一番上が 15 歳から 64 歳までの生産年齢 人口、下の右肩上がりになっているのが高齢者人口でして、9 ページのグラフにありますように総人口 に占める割合が 2015 年の 22.4 パーセントから 2040 年には 35.9 パーセントに増える見込みとしており ます。一方、年少人口なんですけれども、13.3 パーセントからこれも 1 割未満となる、9.6 パーセント にまで落ちるとしてしております。次に 10 ページの (2) 自然増減。すなわち出生数と死亡数の推移でござ いまして、出生数は右肩下がり、死亡数は右肩上がり。2010 年に死亡数が出生数を上回りまして、 将来推計ではますます差が開いていくとされております。

また、次のページの 11 ページ、合計特殊出生率、女性が一生に産む子どもの数でございまして、2010 年で全国平均 1.39 に対して、大阪府は 1.33。その後も全国平均を下回って 1.26 とか、1.27 になるもの としております。ちなみに前回説明しましたけれども、東京都は 2013 年で 1.13 ということで最低となっ ております。それから、ご参考までに先ほど入ってきたニュースなんですけれども、厚労省が公表した 人口動態統計、これの 2014 年の合計特殊出生率は 1.42 ということで、前年よりも 0.01 ポイント下回 ったというニュースが入ってきました。全国の出生率をご説明、前回しましたけれども、最低の 1.26

というのが平成 17 年からは毎年ずっと上がってきてたんですけども、9 年ぶりに前年を下回ったっていうのが、このニュースなんです。その内容の詳しい分析はないみたいですけども、30 代の出産が減っていることが影響しているっていうふうにニュースでは書かれております。

続きまして、出生率に関係するものとしまして、下の 12 ページの生涯未婚率の推移でございますが、男女とも全国平均を上回っておりまして、男で 20.35 パーセント、5 人に 1 人が生涯独身ということで、女が 13.18 パーセントで、女の全国平均との差がこちらは大きくなっております。また、注目すべきはやはり大阪も全国同様に近年で急速に未婚率が上がってきているということでございます。次の 13 ページの (3) 社会増減。すなわち大阪府からの転出、転入の状況の推移でございますが、グラフのゼロから上が転入者数、下が転出者数で、折れ線グラフというのは転出と転入との差を示しております。1970 年頃といったら、大阪万博の辺りなんですけれども、転入増が上回っておりますが、その後は転出超過で、一時的に転入超過となっているところ、例えば近年では 2011 年、これは東日本大震災の影響やと言われておりますけれども、少し、転入超過となりましたが、直近では再度転出超過となっております。

この転出入を年齢階層別に見たものが下の 14 ページのグラフになります。これは 2014 年の転出超過 391 人の内訳でございますが、転入超過になっているのは、15 歳から 24 歳。恐らく高校、大学等の関係であろうと思われま。一方、転出超過は 30 歳から 39 歳が多くなっておりますが、ただ、0 歳から 4 歳のところが多いということは、これも恐らくですけども、家族での転出が多いのかなというふうに思います。それではどこに転出しているのかでございますが、次のページの 15 ページをご覧ください。東京圏、すなわち東京圏というのは、東京、埼玉、千葉、神奈川の 1 都 3 県への転出超過が約 1 万 1,000 人ということになっております。一方、東京圏以外の近畿を含む、北海道から九州までの他の圏域からは全て転入超過となっております。

次、下の 16 ページの (2) 地域別人口の推移でございますが、大阪府を 5 地域に分けて表示しております。泉州地域というのは、堺市以南の合計になりますが、2010 年の 176 万人から 2040 年には 154 万人となって、減少率が右のグラフにありますように、南河内などと比べたらまだ少ないほうですけども、0.876 となっております。また、次の 17 ページの年齢別構成比のグラフですけども、左の上から二つ目が泉州地域になります。高齢者は 2010 年の 22.0 パーセントから 2040 年には 34.2 パーセントに増加する。一方、年少人口は 14.7 パーセントから 10.9 パーセントへと減少するものとしております。ただ、他の 4 地域と比べますと、まだ高齢化、少子化が若干、ましな数字かなというふうになっております。

次に、下の 18 ページの (5) 世帯数と世帯構成の変化でございますが、棒グラフの一番多い一般世帯は 2010 年の 382 万世帯から、2035 年の 374 万世帯へと。これは少し減少しますが、注目すべきは白の棒グラフ、これは高齢世帯ですけども、120 万世帯から 148 万世帯に増えること。それと、もう少し小さいほうの棒グラフ、高齢単独世帯数が 45 万世帯から、こちらは 1.4 倍以上の 65 万世帯へと急増することになる、いうことでございます。次、ページをめくっていただきまして、19 ページの (6) その他、昼夜間人口比でございますが、100 を超えますと昼間の人口のほうが多いということになります。東京都の 118.4 には及びませんが、大阪府は 104.7 で通勤、通学等によって周辺府県から人口流入しているということでございます。

次の下の 20 ページの交流人口でございますが、左のグラフというのは、外国人宿泊者数で大阪府は 2014 年が 584 万人となって、前年比 35.5 パーセントの増、ちなみに 2013 年は 40.8 パーセントの増ということで、高い伸びを示しております。なお、右のグラフのほうは、日本人宿泊者数ですけども、これも伸びは小さいものの、前年よりも増加しております。また、次の 21 ページの来阪外国人客数で

も、前年比 30 パーセント増の 263 万人となって、全国が 1036 万人の増で、その、1036 万人で、そのうちの 25.3 パーセントを占めているということです。以上が大阪府の人口潮流でございます。

次に 3. 人口減少・超高齢社会の影響についてでございますが、ページをめくっていただいて 23 ページをご覧ください。府民生活、経済雇用、都市・まちづくりの三つの分野に分けて人口減少、超高齢社会や東京一極集中の進展による影響等を分析するとしております。ここに記載されております、高齢化の急速な進展や生産年齢人口の減少などは、単に項目を羅列しただけで、内容はこれから作成されると伺っておりますので、参考としてご覧いただきたいと思っております。次に 4. 基本的な視点・取り組みの方向性・人口の将来展望についてでございますが、25 ページには基本的な視点が記載されております。下の三つの黒丸印の所ですけれども、1 点目に出生率を向上させることにより人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構成そのものを変えていく。2 点目に今後の人口減少、超高齢社会に的確に対応し、効率的かつ効果的な社会システムを再構築する。3 点目に都市としての経済機能や魅力を高め、活気あふれる大阪を実現するとしております。

それから、その下の取り組みの方向性でございますが、三つの柱で取り組みを進めるとしまして、一つは、若者が活躍でき、子育て安心の都市・大阪の実現、二つ目に人口減少、超高齢社会でも持続可能な地域づくり、三つ目に東西二極の一極としての社会経済構造の構築というふうにしております。なお、一番下に記載しておりますように、具体的な方向性については『大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略』において記載することになりますとしております。最後に一番後ろの 27 ページでは、人口の将来展望をグラフで示しております。左上のグラフは若い世代の就労、出産、子育ての希望が実現したら、ということで、出生率が 2020 年に 1.6 程度、2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 と想定したものでございます。

その結果、当初予測の 2040 年の 750 万人から 811 万人へ、61 万人の増加を見込んだものでございます。その右のグラフ、これは東京圏への一極集中を是正したらということで、東京圏への転出超過数がゼロになるとして、25 万人の増というふうにしております。中、ちょっと右の欄外ですけれども、昼間人口、インバウンドの増加による交流人口の増加が期待されるとして、そういったプラスアルファを加えてこれらを合計して人口減少に歯止めがかかれば、すなわち社会増減、自然増減とも理想をかなえた場合、下のグラフのように 2040 年で 88 万人増の 838 万人になるというふうにしております。『大阪府人口ビジョン』の骨子案については以上でございます。

引き続きまして資料 2 のほうですけれども、『大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略』骨子案について、ご説明申し上げます。まず、表紙の下に目次がございます。総合戦略の組み立てとしまして、1 で基本方針、それから 2 で創生総合戦略の方向性を示した上で、3 で基本となる施策の柱立てとして、①若い世代の就職、出産、子育ての希望を実現する環境整備から、⑥の都市魅力、定住魅力の強化までの施策を提示しまして、最後に 4 で活力ある地域創出、副題として、新しい「都市型」ライフスタイルの提唱を掲げております。内容的にはまだまだこれからのようで、単に総合戦略の骨組みを示しただけですので、大阪府の担当者からの内容説明はほとんどございませんでした。

従いまして、イメージとしてご覧いただきたいというふうに思います。ページをめくっていただきまして、1、基本方針としまして、4 ページでは先ほどの『人口ビジョン』の概要説明、および 5 ページで将来展望を示しております。6 ページは総合戦略の基本姿勢としまして、幾つかの報告が記載されておりますが、四角で囲った太文字の部分で、変革のチャンスと捉えて改革に取り組み、持続的な発展を実現。また、人口減少、超高齢社会がもたらす将来の備えを着実に推進としております。それから、一番下の (3) 計画期間ですけれども、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とするものでござい

す。次にページをめくっていただきまして、2、創生総合戦略の方向性でございますが、先ほどの『人口ビジョン』の中での取り組みの方向性として、3点示しておりました項目についての内容説明となっております。すなわち8ページから9ページにかけて、1で若者が活躍でき、子育て安心の都市・大阪の実現。2で人口減少、超高齢社会でも持続可能な地域づくり。3で東西二極の一極としての社会経済構造の構築について記載しております。

次に3、基本となる施策の柱立てでございますが、先ほど目次に記載していた6項目について、11ページから16ページにかけて記載しております。内容的にはあくまでも大阪府の事務局対応、企画部門でございますけれども、そこが事例として示しただけのもので、内容説明は全くございませんでしたので、説明は省略致しますが、この部分が一番肝心な具体的な施策が示されることになろうかということでございます。次に18ページの4、活力ある地域創出でございますが、(1)で東京圏への流出超過の解消というのを掲げております。次の19ページでは黒く囲った部分ですが、生活、経済、都市などのテーマごとに東京圏と大阪の比較を行い、大阪の強みと弱みを分析。分析に基づき、東京圏から大阪への人口対流方策を事例とともに提案ということで、この部分に詳しい提案内容が示されることになるということでございます。

最後に20ページの(2)地域類型別課題への対応でございますが、大阪の中での都市部、周辺部、郊外部、山間部がございますので、そのメリット、デメリットを踏まえて、地域ごとにどのような強みがあって、それをいかに伸ばすべきかを整理し、提示するものとしております。抜粋した説明でしたが、『総合戦略』の骨子案については以上です。中でも申し上げたように、あくまでもイメージということで捉えていただけたらいいと思います。最後に大阪府の今後の策定スケジュールも説明ございましたので、申し上げますと、先にご説明しましたが、府の『総合戦略』会議の第1回会議が今月の下旬に開催されまして、8月下旬頃に『総合戦略』素案が策定されるとのことでございます。その後、平成28年1月頃に『総合戦略』案を策定して、その案を2月の府議会で説明した後に、最終的には平成28年3月に『総合戦略』を決定する予定でございます。

本市と致しましては前回に申し上げたとおり、本市の場合は、本年10月、10月を目途に『総合戦略』を策定する予定でございますので、そういう意味では大阪府も『総合戦略』素案の段階で、府の施策内容の参考に本市の『総合戦略』のご判断をいただきたいというふうに思います。よろしく申し上げます。大阪府の状況等については以上とさせていただきます、引き続きまして、泉佐野市の人口の現状等につきまして、本日カラー刷で配布させていただいております資料に基づいてご説明したいと思います。まず1ページですけれども、前回の会議で西座委員さんのほうから資料提出のご依頼があった、年齢区分別人口でございます。左の上の人口ピラミッドは現状を示しておりますが、全国と同様で団塊の世代と団塊ジュニアの世代が多くなっております。右の人口ピラミッドは平成52年、2040年の推計数値でございますが、総人口は現在の10万2226人から、8万9989人へ、今、1万2000人余りですか、11パーセント減少する見込みとなっております。

また、下のグラフのとおり、平成19年と平成52年を比較しますと、0歳から14歳の年少人口の割合が15.5パーセントから10.2パーセントに減少する一方で75歳以上は7.9パーセントから17.3パーセント、65歳から74歳は11.3パーセントから15.7パーセントへと増加する見込みになっております。次、2ページご覧ください。人口、世帯の推移でございますが、平成6年の空港開港後、毎年人口増となっておりますが、平成21年をピークにこの6年間、徐々に人口が減少してきております。一方、世帯数でございますが、こちらは人口減にもかかわらず、まだ今も増加しております。これは単身世帯とか、家族数の少ない世帯が増えているということになります、いずれ人口減によって世帯数も減少

に転じるものと考えられます。下のグラフは5年ごとの今後の人口推移を示したものでございます。

次に3ページですが、直近10年間の市内、全ての町別の人口推移を示したものでございます。要は平成17年と平成27年を比較した分です。ちょっと細かい表で見にくいと思いますけれども、これを小学校区別にまとめた表が次のページの4ページにありますので、こちらのほう、ご覧ください。ご覧のように増加しているのは、日根野小学校区、中央小学校区、第二小学校区の順に多くて、逆に減少が多いのは長南小学校区、佐野台小学校区、第三小学校区となっております。ちなみに小学校の児童数も人口増加多い、その3小学校がトップ3となっております。一方、佐野台小学校、第三小学校は1学年1クラスになっていまして、児童数も全校で100人をそれぞれ下回っております。

次の5ページをご覧ください。先ほどの町別の人口の部分ですけれども、その増加数上位10位、それから減少数上位10位の表になります。増加の1位は日根野の野々地蔵が特に多くて、羽倉崎2丁目、日根野の野口、西上が続いておりますが、これらはマンション建設等によるもの、いうふうに考えられます。ちなみに7位の市場東1丁目っていうのは、この市役所のある所在の町名ですけれども、ここから左を、山側を見ていただいたら、以前なかった分譲が開発されている部分があると思います。そういった分譲とかされているような影響かなというふうに考えられます。

それから、次に、減っているほうは、新安松3丁目、それから佐野台、これが大きく減少しております。ここには府営住宅が所在しておりまして、その減少が大きく作用しているというふうに考えられます。なお、公団佐野湊とか、府営住宅の長滝第1住宅、見出住宅も減少しておりますので、住宅戸数の減少施策であるとか、建て替えもちょっとあったんですけども、建て替えによる募集停止なども影響しているのかなというふうに考えられます。次に下のグラフの合計特殊出生率をご覧ください。前回の会議でも申し上げましたように全国平均を下回っておりまして、年によって前後しますが、1.3で平成24年では大阪府平均とイコールになっております。次、6ページをご覧ください。自然動態の推移でございますが、グラフのゼロより上が出生数、下が死亡数で、その差し引きが折れ線グラフになります。平成23年で死亡数が出生数を上回って以後はマイナスとなっております。

社会増減については次の7ページの左のグラフをご覧ください。7ページをお願いします。社会動態の推移としまして、グラフのゼロより上は転入数、下が転出数で、その差し引きが折れ線グラフになります。従前の転入超過から一転して転出超過となっておりますが、平成22年以降は転出超過が定着しております。それで、再度ちょっと6ページに戻っていただいて、右の自然動態、社会動態の推移のグラフ、要はこの二つを足した推移になるんですけども、この二つを合わせますと、折れ線グラフのような減少状況となります。なお、平成32年以降というのは、社会保障・人口問題研究所の推計になっております。それによりますと、社会増減はプラスを見込んでおるんですけども、既に、現状でマイナスですので、予測を上回って転出超過が進んでいるとの見方もできるのではないかと考えております。

また、すいません、7ページのグラフをご覧ください。右のグラフですけれども、平成26年の年齢階層別転出入超過数のグラフになっております。総数では202人の転出超過のうち、特に転出超過が多いのは35歳から44歳の階層で110人となっております。一方、15歳から24歳は136人の転入超過、特に男性が多くなっております。これ見て先ほどご説明した大阪府の状況とちょっとよう似ているなどというふうな傾向になっておると思うんですけども、本市の場合はやはり関空などの企業の就職動向とか、移動による影響があるのかなというふうに考えております。

次に8ページをご覧ください。転入超過数、転出超過数の多い市町村を順に並べたものでございます。転入数、それから転出数そのものの数値っていうのは9ページの市町村別の数値になります。この8ページは差し引きで超過している数っていうことでございます。9ページの数値では、9ページの数値自

体は近隣市町、あるいは和歌山市や堺市などが多くなっておりますが、8 ページの転入、転出超過数を見ますと、ざっと見ていただいたら分かるんですけども、阪南市とか和歌山市などからやってきて、大阪市とか北の方面に転出していつているような、そんな感じにどうも見えます。なお、大阪市というのは区で分かれて表示してあるので、ちょっと大阪市の転出超過数を合計してみますと 200 人程度になるのかなというふうに思います。

それから、ちょっと気になる転入超過数の第 4 位でなんか霧島市って「何？」っていう感じで思うと思うんですけども、ちょっとこれも原因、私なりに調べてみたんですけども、どうも鹿児島空港の所在地が霧島市になっていまして、見たら航空会社とか空港関連の会社が多く立地しているみたいなんです。ですから、例えば会社の寮などから転入されたのかなというふうに思います。

次、10 ページのほうをご覧ください。10 ページは産業別就業者数の推移のグラフになっています。上から第 3 次産業、第 2 次産業、第 1 次産業で、ちょっと製造業等の第 2 次産業が減少傾向になっているなというふうにグラフでは見えます。また、下の産業別就業者の構成比では、農林漁業等の第 1 次産業は全国平均よりは低いんですけども、大阪府では 2 番目に高い数値となっております。

次、11 ページをご覧ください。上のグラフは男女別産業大分類別人口でございます。棒グラフの大きいのは製造業、それから卸売業・小売業、それから女性も多いと思われる医療・福祉、それから運輸業・郵便業が多くなっております。それと、折れ線グラフっていうのは、特化係数。特化係数っていうのは何かということなんですけれども、全国と比べて、その産業が特に多い、特化されているかどうかを係数で表したものでございまして、1.0 っていうのが全国平均になります。数値の高い特化したものっていうのが、運輸業・郵便業でございまして、男性で 1.5、女性でははるかに上回る 2.5 っていう高い特化係数になっております。もちろん、輸入業に含まれるのは空港関連の事業者ということになりますので、そういう意味では泉佐野市はこういうことが特化しているというふうに言えるということでございます。

次に下の年齢階級別人口のグラフをご覧ください。ちょっと細かくて色分けも分かりにくいんですけども、一番上の農業・林業は、ちょっと黒い部分が 70 歳以上なんですけれども、この方が 6 割ぐらいですか、占めておまして、その次というのが、その下の漁業、5 割近く、占めているというふうに見れると思います。あと、細かい部分はちょっと個別には申しませんけれども、いろいろ差があるようでございます。資料は以上となっておりますが、なかなか分析が難しいものもございまして、今後、『人口ビジョン』作成に向けて研究してまいりたいというふうに思っております。長くなりましたけれども、説明は以上です。

(吉村会長)

ありがとうございました。特に府の状況、前回、西座委員のほうからご質問がありました、泉佐野市の年代別人口等々の他、人口等に係る現状データの数字をいただきました。厳しい数字が出たと思うんですけども、まず、今の説明に関しまして何かご意見とかご質問等をお受けしたいと思うんですが、いかがでしょうか。なかなかいろんな情報が盛り込まれておりますので、簡単にはないかと思うんですが。何かご質問含めまして、いかがでしょうか。そうしましたら、この資料、ちょっと今、急にというのも難しいかもしれませんので、いずれこれ、会議をしていく中で、また、いろいろご質問いただければと思いますので、また、不明な点等ありましたら、ご意見頂戴できましたらと思います。それでは、続いて、きょうの本題となろうかと思っておりますけれども、市民アンケート調査についてでございます。

市民アンケート調査の内容等の資料は、資料の 3 以降についております。これにつきまして事務局の

ほうから説明をお願いします。

[事務局 松下]

それでは議事次第の(2)市民アンケート調査についてご説明をさせていただきます。まず、市民アンケート調査を実施する目的でございますけれども、この戦略会議にて委員の皆さまからさまざまなご意見等をいただき、『泉佐野市まち・ひと・しごと創世総合戦略』の策定に伴いまして、本市のまちづくりに関する行政施策に対する市民満足度をはじめ、本市の特徴、強みや弱みの他、今後のまちづくりに求めるもの、また、人口減少における、将来の本市の在り方など、まちづくりに関する幅広い市民の意向把握を行った上で、今後の取り組むべきまちづくりの方向性等を示すために実施するものでございます。

また、アンケート調査の中には結婚、出産、子育て等に関する意識調査も含んでおり、結婚や出産などに関する希望や、未婚者の結婚や出産に対する所在要因などを把握することで子どもを産み、育てやすい環境づくりに取り組むための方向性も明らかにしてまいりたいと考えております。あと、将来におきまして、希望する子どもの数を把握することで、将来の人口推計や基本目標の設定に関する参考にしていきたいと考えております。

次に、資料3をご覧ください。今回実施するアンケート調査は全部で5種類ございます。まず、一般的な調査としまして、(1)市民アンケート調査ということで、18歳以上の市民、3,000人を対象とした調査、(2)高校生世代アンケート調査ということで、市内在住の高校生世代500人を対象とした調査、(3)事業所アンケート調査ということで、市内の企業1,000社を対象とした調査、これらは6月の10日、水曜日に発送し、返信期限は6月30日、火曜日を予定しております。

次に(4)転出者・転入者アンケート調査ということで、本市からの18歳以上の転出者および転入者600人、それぞれで言いますと、300人ずつになります。を対象とした調査も実施します。この調査につきましては、既に今月、6月の1日から1階にあります、市民課の窓口にて転出届、転入届の手続きに来られたかたがたに対しまして、調査票を配布し、アンケート調査へのご協力をお願いしております。そして、(5)市内の中学3年生、970人を対象とした中学生アンケート調査でございます。教育委員会、泉佐野市校園長会を通じまして、市内5中学校におきまして調査票を配布し、実施したいと考えております。この(4)転出者・転入者アンケート調査と(5)中学生アンケート調査につきましても、6月中に予定しておりますが、転出者・転入者アンケート調査の回答サンプルが少ない場合も考えられますので、状況によっては別の方法で調査を実施することも考えております。

次に、アンケート調査の内容について簡単にご説明します。資料4をご覧ください。先ほども申しましたように、一般的な調査としまして18歳以上の市民、男女3,000人を対象としたアンケート調査で設問には結婚、妊娠、出産、子育て等に関する意識調査も含んでおります。内容につきましては、六つの項目で構成しており、問は33までございます。2ページをご覧ください。まず、あなた自身のこと、自分自身のことについて、問1から問9まであり、順に性別、年齢、職業、在住の地区、校区です。泉佐野市に何年住んでいるか、家族構成、親の状況、兄弟姉妹の人数について聞いております。次に問10から問15までの6問については、住みやすさについての設問でございまして、泉佐野市が好きか嫌い、泉佐野市が住みやすいと感じる点、反対に住みにくいと感じる点、住む場所の検討に重視する点、行政サービスについて、それとあと、今後も泉佐野市に住み続ける予定かどうかを聞いております。

次に、5ページの真ん中あたりになります。働くことについて、問16から問18までの3問ございます。就労場所、市内外での就職、転職の希望、就労機会の向上等に向けて市が取り組むべき点につ



いてを聞いております。次に問 19 から問 22 までの 4 問については結婚についての設問でございます。結婚しているか、していないか。泉佐野市が取り組むべき結婚支援について、知り合ったきっかけ、結婚後の働き方についてを聞いております。8 ページになりますが、出産、育児についてが問 23 から問 30 までの 8 問ございます。まず、子どもの数、そして、今後持ちたい子どもの数、理想的な子どもの数を聞き、理想と子どもの数の差について、そして、育児サービスについて、出産後の働き方についてを聞いております。

問 31 から最後の質問の間 33 までの 3 問につきましては、人口減少社会におけるまちづくりについての設問でございます。泉佐野市の将来の人口をはじめ、あとの 2 問については記述式で人口減少のことについて。自由に記述できるようにしております。全体的に質問項目は多いですが、回答しやすいようにできるだけ選択式を多く採用しております。

次に資料 5 をご覧ください。将来の泉佐野市の方向性を考えるために、高校生世代以降を対象としたアンケート調査でございます。このアンケートにつきましては市内在住の 15 歳から 18 歳までの方、500 名を対象としており、学生の方もおられる。中には働いている方もおられるということで、高校生世代アンケートということに致しました。

内容につきましては三つの項目で構成しており、問は 13 までございます。2 ページをご覧ください。まず、自分自身のことについてが問 1 から問 5 までの 5 問あり、順に性別、兄弟姉妹の人数、在住の地区、学生か就業しているか、現在の場所にいつから住んでいるかについてを聞いております。問 6 から問 9 までの 4 問につきましては、泉佐野市のことについての設問です。泉佐野市が好きか、嫌いか、将来も泉佐野市に住みたいか、住みたくないか、泉佐野市で自慢したいことや、泉佐野市に期待したいことについてを聞いております。5 ページになりますが、5 ページは未来のことについてということで、問 10 から問 13 までの 4 問ございます。結婚や子どもの数だとか、進路についてを聞き、そして、最後の質問としまして、問 13 は記述式を採用しまして、2060 年までに泉佐野市に期待することについて記述できるように、自由に記述できるようにしております。

次に資料 6 をご覧ください。高校生世代と同様に、将来の泉佐野市の方向性を考えるためのアンケート調査としまして、中学生を対象としたアンケート調査でございます。市内 5 中学校の中学 3 年生、約 970 名の生徒さんをお願いしたいと考えております。内容につきましては、ほぼ、先ほど言いましたように高校生世代アンケートと同じでございます。問は 10 までございますが、高校生世代アンケートの違いにつきましては、結婚や子どもの数のことについての質問がないという点でございます。

次に資料 7 をご覧ください。転出者アンケートということで、本市から転出される 18 歳以上の方を対象にしたアンケート調査です。市民課へ転出届を提出に来られた方をお願いするものです。内容につきましては三つの項目で構成しております、問は 13 までございます。2 ページをご覧ください。これもまず自分自身や家族のことについてが問 1 から問 9 までの 9 問あり、順に性別、年齢、職業、家族構成、子どもの状況、転出先、そして、泉佐野市在住時の家の状況、転出後の家の状況、泉佐野市の居住年数についてを聞いております。問 10 から問 11 までの 2 問につきましては、転出の理由についての設問でございます。転出のきっかけや泉佐野市以外に住まいを決めた理由についてを聞いております。

そして、最後の 4 ページは住みやすさについての設問で、問 12 から問 13 までの 2 問ありまして、泉佐野市で住みやすかった点と、反対に住みにくかった点について、これは選択項目も対照的に設定して、聞いております。

次に転入者アンケートについてでございます。本市へ転入される 18 歳以上の方を対象にしたアンケート調査で、これも同じく市民課へ転入届を提出に来られた方をお願いするものです。内容については

二つの項目で構成され、問は 15 までございます。2 ページをご覧ください。まず、自分自身のことや家族についてが問 1 から問 9 までの 9 問あり、ほぼ転出者アンケートと同じで、内容にしております。次に問 10 から問 15 まで 6 問については、転入の理由についての設問です。転入のきっかけや泉佐野市以外で住まいを探したか、泉佐野市に住まいを決めた理由、住まいを探したときの情報源だとか、行政サービスについて、そして、最後に問 15 としまして、泉佐野市の居住者を増やすための取り組みについてを聞いております。

転出者アンケート、転入者アンケートもオール選択式で回答、できるだけ回答できるような形にしております。

最後に資料 8 をご覧ください。市内には約 4,700 社以上もの事業所がありますが、そのうちの 1,000 社を対象としたアンケート調査でございます。これは当初予定はしていなかったのですが、他市の状況を見ていますと、実施している自治体もございまして、また、内容的にも例えば結婚、妊娠、出産後も継続して女性が働くためにどのようなことが必要だとか、今後、重要視する経営上の課題についての質問に対する回答は参考になるのではないかとということで今回実施することと致しました。アンケートの内容については、三つの項目で構成しており、問は 24 までございます。内容につきましては 2 ページをご覧ください。事業所の現状についてが問 1 から問 10 までの 10 問あり、順に業種、泉佐野市の創業年数、従業員数、そして、従業員のうち、泉佐野市、市内在住の社員の割合、そして、女性社員の割合、3 ページに移りまして、問 6 では女性正社員の結婚、妊娠、出産時の状況をはじめ、有給休暇取得率、育児休暇取得率、労務管理上の課題について、そして、4 ページでは問 10 としまして、結婚、妊娠、出産後も継続して女性が働くためにどのようなことが必要かを聞いております。

5 ページになりますが、事業所の今後の意向についてが、問 11 から問 19 までの 9 問ございます。事業規模の見込み、正規雇用、非正規雇用の募集予定、事業場所の継続について、そして、事業拠点の検討について、6 ページでは、問 16 としまして経営上の課題、問 17 から問 19 までが生産、技術連携についてを聞いております。次に問 20 から問 24 までの 5 問につきましては、泉佐野市のことについての設問でございます。事業を続ける中での泉佐野市の良い点や、足りない点をはじめ、8 ページでは問 22 としまして、産業振興について、問 23 としまして、就労機会の向上等に向けての行政サービスについてを聞き、最後に問 24 としまして、記述式で今後泉佐野市が活性化し、人口減少に歯止めをかけるためにはどのような施策を進めるべきかを聞いております。

この事業所アンケートも一番初めに言いました、3,000 人を対象とした市民アンケート調査と同様に、設問が多くて、回答する側にとってはボリューム感もあるというふうに思っておりますけれども、事務局としましては、たくさんの回答を期待したいと考えております。市民アンケートについての説明は以上です。よろしくお願いをします。

(吉村会長)

説明ありがとうございました。ここから質疑にいきたいと思うんですが、その前に、事務局のほうから何かありますか。

[事務局 石橋]

徳田さんが、駆けつけてくれましたのでちょっとご紹介をさせていただきます。泉佐野市 PTA 連絡協議会の常任理事の徳田裕美様でございます。

徳田 遅れてすみません。徳田裕美と申します。よろしく申し上げます。

(吉村会長)

ありがとうございました。それでは、議事に戻らせていただきたいと思います。今の説明に関しまして、ご意見やご質問等お伺いしていくということになるんでございますけれども、何かございますか。事務局からの説明にもございましたように、このアンケート調査を非常に重要なものとして捉えまして、施策を検討していこうというものでございます。非常に重要度が高いという認識をしておるところでございます。ただ、今もありましたけれども、私も最初思ったのが質問数多いなというのが正直なところではあったんですけども、とはいえ、聞きたいことは聞きたいなという気は難しいところなんですけど、これはやっぱりあったほうが良いといったような形でありましたりとか、質問そのものの追加でありましたりとか、あるいは質問の中の選択肢でこういうものを入れておきたいであるとか、自由な形でまずはご意見をお伺いしたいというふうに考えておるところでございます。

ですので、質問の中身等々についてでも結構でございますので、特にどのアンケートについてという順番でやろうという形でもございませんので、アンケート全体についてでも結構でございますし、個別のアンケートについてでも結構でございますので、ご意見、あるいはご質問でも結構ですので、委員の皆さま方、いかがでしょうか。

(中村委員)

人権擁護委員をやっています、女性センターネットワークでゲストティーチャーの講師をやらせてもらっております。その観点から実は、常にこのアンケートで引っかかるところが、性別についての男性、女性、一つにどっちかに答えなさいってところが必ずあります。これは傾向として、こうせなあかんのかなと、統計としたら取りやすいと思うんですが、うちの市としてはあらゆる人権についていうことを掲げている観点からいっても、もう一ひねりっていうか、何か聞き方がないかなと思います。このアンケートでも性別を聞きたいっていうのは分かるんですが、例えば『あなたが思う性別一つ』として、『あなたが思う』と一言入れるとであったりとか、小学校に行くと、教室もやらせてもらっているんですが、その他っていう項目を一つ入れたりします。その他っていうところに入れると、子ども、中学生とか高校生になると、面白がって丸したりっていうことも考えられるんですが、一応、読むほうとしては男性、女性、その他っていう形で入れたりというのが、センターのほうのネクストティーチャーではこういうふうに項目をつけています。

この項目つけるだけで、ちょっと優しくなるかなと思ったり、ちょっと何か言い方も、『あなたが思う性別』とか。ちょっとご一考願えたらと。常にその観点からいくと、この性別っていうのが二つに限られて、二つしかないっていうふうに思うのは。

(吉村会長)

これに関しては事務局いかがですか。

[事務局 道下]

ちょっと、他の所のアンケートとかも、参考にさせてもらおうかなとは思いますが、一般的なやつをまず見た上で、このアンケート作りしましたもので、おっしゃるような観点というのが、どんな形で入れている所とか、ちょっとまた、参考にさせていただけたらなというふうに思います。

(中村委員)

いろんな学校に行かせてもらっても、中学校に行くとうどんなんでしょう。何かあればと聞かれましたので、常に私たちもそうですねって言ってきた所ではあったんです。

[事務局 道下]

分かりました。ありがとうございます。

(吉村会長)

調査した上で、一つ。

[事務局 道下]

表現が、何が一番適正なのかというのも、市としても考えたいと思います。

(吉村会長)

他。全体を通して、あるいは個別でいただくか、お願い致します。

(西座委員)

資料 3 の 1 枚目の (4) 転出者・転入者アンケートの所なんですけども、6 月 1 日から用紙を配布というふうに書いてあるけども、始まっているということになりますけど。

[事務局 松下]

6 月 1 日から私ども市民課の窓口に来られた、転出者、転入届を出しに来られた、提出に来られた方に市民課の職員のほうからお渡しして、協力をお願いをしているということでございます。

[事務局 道下]

委員さんおっしゃりたいのは、まだこれ承認とかしていないのに先行しているのではないかと、っていうふうな趣旨だと思いますので、われわれ、サンプル数がやはりちょっと少なくなり過ぎてもあかんの、まず、一応この形で最初スタートさせていただいて、もし不備なところがあれば途中で変えようかなというふうに思っていましたので、サンプル数がちょっと少な過ぎるなど、また、ひと月分で足りないという場合、もう既に転出した人にも、郵便で送ろうかどうしようかっていうのを、また再度考えようかなと思っていましたので、その辺のところはちょっとご理解いただけたらなというふうに思います。修正した上でまた、これ以降の分は取らせていただこうかなというふうに思います。

(西座委員)

その部分で約 500 人中、提出者 300 人とあるんですけど、これは人数が 500 人ではない理由は、それはお子さんとかを減らしたものとして 300 人というふうに記載しているのでしょうか。

[事務局 石橋]

これはすみません、この 500 人っていうのは特に意味がないっていうか、想定でございまして、大体の

サンプル数として転入・転出者数で今で言いますと、月 340 から 350 ありますので、それで大体 300 人ぐらいで見させてもらおうかなって思っています。

(吉村会長)

340、350 ぐらい出ているほとんどの人に、まず、取りあえずお願いをするということでよろしいですね。一つ目の質問に関しては、もしも大幅に変更がないとするならば、供給している部分については、既に渡した部分、使わせていただくと。そぎ落とした部分については例えば利用しないとか、いうふうな形で、ただ、ちょっと先行させていただいているということで、暫定版でということよろしいでしょうか。次。どうぞ。

(西座委員)

このアンケートなんですけども、中学生アンケートに関しては多分ほぼ 100 パーセントに近い確率で回収ができるんじゃないかなと思うんですけども、他の世代アンケートに関しましては、これは、逆に言うとうるふうな努力をされてアンケートを回収するのか、家族関係とか、普通に送って送り返してくださいねっていうアンケートでどれだけのものが返ってくるのかっていうのを、例えば今まで何かアンケートを送られたことがあって、結果、これぐらい送られてきているので今回は何千人を出しますとか、そういった何か根拠があるのか、それとも何もないのか。また、うるふうな工夫をされて、アンケートを回収されるのかっていうところをお聞かせ願えればと。よろしいでしょうか。

[事務局 道下]

アンケートはうるふうな部署でうるふうなアンケートさせていただいています。うるふう意味ではアンケートの数っていうのを、統計学的にうるふうとあるんですけども、数が多ければ多ほど、その正確性って言ったらおかしいですけども、それが上がっていくんですけども、それから下がったからっていうても、やっぱり傾向としては 90 パーセントとかっていうのがやっぱりありますので、だから、大体よくお答えいただいている分で半分近くかなというふうに思っています。前回総合計画とか、うるふうなやつでは 30 パーセントから 40 パーセントっていうふうなものになっていますので。ただ、お知らせする期間っていうのは、おっしゃるように、例えば国勢調査とか、必ず全員やっってくださいっていうのは、皆さんももうそろそろ市報とかで載るの見ていただいたら分かると思うんですけども、うるふうなアンケートっていうのは、なかなかお知らせしているっていうのが、今まで市の中でもあまりございません。

また、市政モニターさんとか、うるふうな方にもその時々でアンケートもさせていただいていますので、特に PR っていうふうなことではなかなか難しいのかなというふうに考えています。ですから、われわれ、3 割から 4 割くらい採れば、一般的なアンケートとしてのサンプル性というのはあるかなという、うるふうな考え方を持っています。

(中村委員)

ちよつといいですか。ごめんなさい。確か人権推進課のほうでも、今年アンケート採りますよね。かぶってないですよ。時期的にはどうですか。

まだ、人権推進課のほうまだですよ。

[事務局 道下]

時期的にはまだだと思います。

(栗本委員)

栗本といいます。中学生対象、高校生対象のアンケートの中の問6の1とか2とかいうところなんですけれども、ちょっと、中学生とか高校生にする質問にしては、住みたい理由として、ちょっと難し過ぎるかなっていう。例えば、自分所の町がもっとええ町やって思っている子どもとかもいっぱい居ると思うんで、食べ物がおいしいとか、お祭りがあるとか、そういうような項目も、これ決まっていたらしかたないんですけど、そういうふうにしたほうが犯罪が少ないからとか、大概に対して安心感があるっていうの、もちろんなんですけど、文化活動の場所であるからとかいうのはもうちょっと具体的に柔らかくしたほうが必然的に、住みたくないのほうが増えちゃったりするんちゃうかなと。自分所いい町やって子どもらが、思っている子たちも多いんで、そういうふうにしたほうが良かったんかなと。もう決まっていたらいいんですけども。

[事務局 道下]

確かに高校生が子どもさんとは言いませんけれども、中学生はおっしゃるような、もうちょっと分かりやすいようなものがお答えしてもらいやすいのかなって、今お伺いして思いましたんで、ちょっとその辺のところも調整させていただけたらありがたいなと思います。ありがとうございます。

(吉村会長)

項目はこのままにしつつ、少し説明的なものを加えるとか。誘導してはいけないんですけども、少し、文化活動の場所とか一体何なんやとか、どういうものイメージしているんやとか、かっこ書きでちよっと入れるとか。

[事務局 道下]

ちょっと補足説明的な文を入れさせてもろうたほうがよろしいですか。分かりました。

(納田委員)

一般の市民アンケートの分と、高校世代対象アンケート、一般で言うと問4ですけども、住まいの地区を聞く項目があるんですけども、中学校区を選択するようになっています。それで、中学生のお子さんがいらっしゃる世帯だったら、自分のお子さんがどこに通っているかっていうことで、選択は簡単にできるかと思うんですけども、それ以外の方という可能性も十分あるんで、自分がどこの中学校区かをすつと答えられる人ってなかなか居ないんじゃないかなと思うんですけども。

[事務局 道下]

分かりました。不明な人のやつをちょっともう一個加えます。

(納田委員)

それで、地域的な傾向の比較とかを見たいのであれば、町名とかを補足で説明で入れて、大体どこの校区を選んだらいいかっていうようなことにするか、特に傾向取らなくていいんだったら、聞かなくて

もいいたろうし。

[事務局 道下]

『分からない方は町名を書いてください』などにしましょうかね。

(吉村会長)

それが現実的な。中学校区ぐらいだったら、個人特定のイメージがあんまりないのかなって思うので。

(吉村会長)

他、いかがでございましょうか。

(石川委員)

すいません。ちょっと話はデータの方に戻ってもいいですか。このカラーのやつ使っていますけど、転入、転出を見ているところで、隣の町とかはあるんですけど、結構、泉佐野の場合には外国人の転入者っていうのが結構あるんじゃないかなと思うんですけど、その辺りはどれくらいなのでしょう。

[事務局 道下]

今も 1,000 人超えているのかな。ちょっと、すいません、今手持ちでないんですけども。

(石川委員)

言いたいことは、結局これ、日本人の転出入だけで、国内の移動こうこうしているっていうのを分析して、大阪府のやつを、国のやつ、人口動態も日本人がどう動いているかっていうことに注目をされているんですけど、当然ながら、外国人の転入者もあるし、特に泉佐野においてはかなりそれは他の市の平均から比べると、そのウエイトは大きいはずだと思うんです。将来的にもその部分がかなりのウエイトを占めてくるのではないかと。10 万規模の町ですから、何千人となっていくと結構なウエイトを占めているんじゃないかと思うんです。

そういうことは無視して、国のひな型がこういうもんだからというのであれば、別にいいんですけど、いや、そうじゃないと、この町の特徴っていうのは、関空の中にあるっていうことですよね。関空で働いているのがたくさん居るっていうことですから、外国人の雇用、外国人の数も増えてきますから、外国人が住むこともこれから増えてくるはずだし、それを増やすことがこの市の活力につながるんだというのであれば、特に何か入れないと。それ、アンケートの中、じゃどこに入れるのかってなると、これは企業アンケートの部分になるのかなと。『あなたの会社では外国人の雇用、これから増やしていくことは考えていますか』みたいな設問は要るんじゃないかなと。このアンケート、1,000 社採るのが、これ空港の事業者かどうか分からない。せっかく、さっき、皆さん、多分これ近郊ですよ、平均の 2.5 倍ありますよね、って説明されたのに、それによって全然違うと思うので、この内地の部分と空港の部分では全く。あるいは空港でなくても、りんくうタウンのどこでも含めて、なんかちょっと聞き方がちょっと工夫があると。やっぱりもともと、泉佐野のこちら側とりんくうタウンでは、就業形態全く違うはずなんで。ちょっとそれを一緒くたにしてみてもあまりちょっと分析は、企業分析はしにくいという気はしますが、皆さんそう思いません。

(舟橋委員)

そうですね。関空は当然空港ですけど、りんくうタウンだって、駅の周辺、物流ゾーンも含めて、泉南のほうに行ったらまた工場とか違うんですけども、泉佐野市地域はかなり空港に関連する事業者さんが多い。やはり、既存のあの市内の部分と全然構造が違うと思いますんで、分けて分析すべきだと思います。

(栗本委員)

そもそも、外国人の方も人口の中に入っているんですか。

[事務局 道下]

今は、住民基本台帳に外国人も登載されることになってますので、住民基本台帳ベースの人口では入っています。住民基本台帳のほうでは転出とか転入とか拾ってますので、これ、国籍とかは何も書いてないんですけども、どこから来られたという中に外国とかもあるはずですよ。数が少ないからこの表には出てないのかなとは思いますが。だから、含まれている分がありますので、1,000人程度やったと思いますけれども、以前500人ぐらいだったのが今住まれる方っていうのは増えていますので、だから、そういう意味では国籍もおっしゃるようないろいろございます。中国、韓国、それからやっぱり泉佐野ではペルーとかブラジルとか、その辺りとか、それは結構人数的には多いように聞いています。だから、そういう意味では住民基本台帳のデータとしては入っているんで、企業さんのアンケートについては今おっしゃるような設問を加えれるところで入れられたらなど。

それと、空港関連か、りんくうタウンの企業さんかっていうのもちょっとそういう意味では先ほどの特化係数じゃないですけども、やっぱり特徴あるのが、そこに地理としても出ているということなんで、それも加えさせていただけたらなど。設問の中の選択肢のほうでどう入れるかについてはちょっと調整させていただけたらと思います。

(吉村会長)

外国人の件についてはそういう形で。何らかの形で分析ができるように。泉佐野の他のアンケートなんかで、外国人に関して、定住したかについて調査されているとかっていうことはないですか。

[事務局 道下]

ないと思います。

(吉村会長)

ないですか。いや、あればそれをうまく活用もできるのかなと思ったんですけども。じゃ、少し、それに関連した項目を入れさせていただくということで。他になんかあれば。

(西座委員)

高校生世代のアンケートなんですけども、これは恐らく、高校に行かれてなく、就職されておられる方も居るということで、多分各学校に依頼をされていることだと思うんですけども、この資料の5のアンケートの中見ると、働いて、ここにさらに働いておられる方と高校に行っておられる方に対するアンケート、違いがちょっと、別に同じ中身なので、特に働いておられる方に対して、特に聞いているとこ



るもないと思うんで、そうであるならば、きちんとアンケートを回収率を高めるために各学校の高校生にさせていただいても、特に変わりはないんじゃないかなっていうふうに思うんですけども。

[事務局 道下]

高校にお願いしますと、高校によって、泉佐野市以外の方がかなりたくさんおられることがあると思いまして、ちょっと高校にお願いするというのは。それじゃ通ってはる人っていうのはどこに通っているのかといえ、当然私立の高校であったりとか、他の岸和田辺りとか、そういった所になるんで、高校にお願いするのが、取りにくいなというのがありましたので、それで年齢だけで一応選択しないとしようがないのかなと。市内に住んでいる方ということで、高校生世代っていうふうにさせていただいたんです。ただ、おっしゃるように、その中身で、それでは一般のほうのアンケートで働いている人は答えてくださいっていうのもちょっと一つのアンケートで多岐にわたるのもなかなかお答えしにくいのかということもありまして、数が多くなり過ぎてもなかなか高校生世代っていうのもお答えしていただきにくいかなと思いまして、数もこれぐらいにさせていただいたということです。

(吉村会長)

西座委員は回収率を気にしてくださっているようなご意見が先ほどからあって、どういうアンケートがあるんですか。

(西座委員)

すごい、将来の展望にという、調査、分析を行うためのアンケートがあるならば、統計学的にも、ある程度の回収がないとそれこそ意味のないもので、ただ、税金の無駄遣いになると思うので、その辺はやっぱり、何か、回収できるものっていうほうは、あまり、可能性を考えるよりは、やっぱり高校生であれば、ほとんど、働いておられようが高校行つてようが大してそんなに大きく差があると思えないんで、この質問であれば。それであれば、ある程度のきちっとした意見を聞けるような体制のほうがいいんじゃないかと、僕の個人としての意見はそう思っているだけです。

(吉村会長)

ちょっと高校側に、せめて高校側が、泉佐野の出身の学生、子どもさんと、市内の高校行かれている人に対してはプッシュして、高校のほうからしていただくとか、なんかできないでしょうか。

(阿部委員)

本校も泉佐野市在住の生徒が4分の1でございます。どこから来ているかは当然全て分かるわけですが、個別に取るとなると、また別に集めてやらないといけないっていうところもあって、多分今のA案では各家のほうに送られるんじゃないかなというのは思って、見させていただいたんですけども、ちょっと関連して言わせていただきますと、このアンケート調査のシニアアンケート、高校生世代アンケート、事業所アンケート、それぞれ母数があって、対象者があるんですけど、それぞれがパーセンテージが違うんですね。シニアアンケートでしたら、約3割、高校世代でしたら、12.5パーセント、事業所アンケートでしたら、21.3パーセントっていう。対象の人数が違うんで、その辺りがどうなんかな。例えば25パーセントぐらいに大体丸めるぐらいの数で加えると。あと回収率がどのぐらいだったということを見て、全体を見られてもいいんじゃないかなっていう気はちょっとしていただんですけど。

高校でアンケートを採れっていう、そういうお話であれば、また、地区の校長会で話はさせていただいて、協力できるところはしたいと思います。その地区の回答としてどうなるかというのは、ちょっと分かりませんが。

[事務局 道下]

おっしゃるようにちょっと時間もかかるのかなというのは、確かに。中学の場合はうちのほうでずっとやってはるんですが、高校だったら1軒、1軒、そういった合意も出ていかなあかんし、泉佐野で住んでいる方が4分の1っておっしゃったように、その辺もアンケートの採り方も難しいかなっていうので、その辺はご理解いただければと思います。

(中村委員)

一般に対するアンケートなんですけど、問 20 の泉佐野市が重点的に取り組むべき結婚支援事業何だと思えますか。これを聞く目的は、幾つかこの項目の中にもありますが、結婚に関する講習会、これは市がこういうことをしようということなのではないでしょうか。婚活イベントなどによる出会いの場の提供、交際術マナーとか、こういうのは、4、5、6 など、すごく引っ掛かる部分ではあります。これを行政がこうやって取り組むべき支援なのかどうかっていうのはすごく疑問なんですけど。

[事務局 道下]

これは他の市でそういった取り組みをされている事例がございまして、そういう意味では7番で「行政がやる必要は何？」っていうふうなことで、そういう点で行政として取り組んだほうがいいのかどうかも含めて、選択肢として挙げています。ニュースとかで見て、こういった他の市が取り組んでいるのをご存じっていうのもあるかと思いますが、選択肢としては選びやすいのかと。

(吉村会長)

行政がやる必要はないっていう選択肢も入れてあるということですね。

(舟橋委員)

通常、市民アンケートとか、それから転出入者のアンケートの中で、住まいを決めた理由、泉佐野市にきた理由とか、出ていった理由とか、住みやすいとか、そういった聞き方される中に教育とか、医療・福祉サービスの充実度とか。充実しているから、それで一つ答えていただいたらええんですけども、われわれ、別途そういうことやっている人間からいったら、その中で何がアピールなんかな。できたら、書ける方はちょっと書いていただいたら。例えば、昔やったら、学校給食があるからとか、そういう売りの部分ですよね。それよりちょっと書いていただいたら、多分、後々の議論のときに役に立つんじゃないかな。思います。ちょっと書くところが増えてしまうんですが。

(吉村会長)

充実度の部分で、特に具体的に記述してもらおうということですね。

(舟橋委員)

もし、書くんやったら、どんなことですかと。

[事務局 道下]

ここの設問の欄外にでも、具体的に書ける点があれば、ご記入くださいみたいにする事は可能かなと思います。書いていただける方は、というふうにはしかならないですけども。

(吉村会長)

他いかがでございましょうか。

(阿部委員)

アンケートの種類は、多分紙で取られるという方向性でされているんだと思いますけど、例えばホームページ上で、そういうアカウント、パスワードを発行して、ホームページ上で回答していくというような形も考えていただけたら、より回答率が上がっていくんじゃないかなというふうに思うんですけど。意見として。

[事務局 道下]

実際、市政モニターさんのやつでご回答いただいているんですよね。ネットのほうで。ただ、ホームページ上でいくと、不特定多数っていうふうになるんで、そのメールアドレスが分からん限り、こちらから郵便の代わりに送るといのがなかなかできないっていうのが、あろうかというふうに思いますので、市政モニターさんは登録していただいているんで、それでアンケートなり、送らせていただいているんです。ですから、ちょっとホームページ上だったら、市民の方以外でも誰でも答えていただくような形になるんで、この件ではちょっとその辺りが問題かなというふうに思いますので、ご理解いただけたら。

(吉村会長)

いかがでございましょうか。

(西座委員)

細かいところで、一般アンケートであれば、一つに丸とか、一つは黒文字で濃くなっていたりしているんですけど、すべてに丸とか、でも、高校生のアンケートとかはそういうところは、そのままの字体になっているんですけど、見やすさ的には一般の方のほうが見やすいのかなというふうに思うんですけども。

[事務局 石橋]

統一します。

(西座委員)

細かくて申し訳ない。あとはもし、このアンケートっていうのは市役所内に置いたりはしないんでしょうか。市役所内に置かれたりして、市役所にお越しになられた方が自由に持って帰って書いたりっていうのは考えておられない。

[事務局 道下]

一応、転入・転出はそういう形でやるんですけれども。置けますけど、ただ、回答率が何パーセントってというのは出ないですよ。だから、その辺りが、そのアンケートの統計的なやつでどう影響するのかっていうのが分かりにくいんですけれども。

(福井委員)

アンケートコーナーを設定するとか。アンケートコーナーを設置するということはできないんですか。どこか一角で書いてもらって、置いた数があるんで、減った分だけカウントするっていうことですね。全て数えられるかの問題はあります。

[事務局 道下]

その辺り、転出・転入の分はやることになっているんで、ちょっと回収箱も要るし、確かに個人情報も消しているとは思いますが、その回収の仕方も考えらなあかんなどとは思いますが、ちょっと一回検討させてもらえませんか。サンプルとして統計的にどういうふうに表現したらええんかも含めて、ちょっと考えさせていただきたい。

(吉村会長)

他に、いかがでございましょうか。今、ちょっとお話をお伺いしておりますと、やはり回収率をいかにアップするかについて皆さん、いろいろまずご意見頂戴しているというふうなのがあるのかなというふうに考えております。あと、今の社会情勢から見たときに適切かどうかという観点から、今後の少し修正といったところと、あと、もちろんこういった大規模なアンケート、基本的には定量的な数字をいろいろ集めるということになるかと思いますが、その中で少し、定性的な分析がどのようにできるのか、もちろん、最終的には文書で書いていただくところもあるんですが、丸印つけていった中でも少し定性的な情報集めていくというような形で。あと、お住まいの中学校、校区がよく分からないといったような細かな点で、しかし、最終的にクロスを取っていくときに重要な点について等々、細かな点に含めても、ご意見頂戴したらどうかと思いますけれども。こういった観点以外にも何か、ご意見、ご質問がございましたら、いかがでございましょうか。この観点でも全然結構でございまして。

私もアンケート調査ってよくやるんですが、回収率がアップしないと信頼性に影響しますので。

(内堀委員)

資料 8 事業所アンケートで、問 10 で、1 番の育児に関する制度の利用について。社員全員とあって、かっこして女性社員を含むってこれ、どういう意味なんですか。男性社員との間違いじゃないかなと思うんですけれども。妊娠、出産、育児っていうのは女性だけがするものじゃなくて、男性ももちろん関わるといって、そういう意味で社員全員ということを強調して、増えているんだと私は思うんですけれども、それだと「男性社員を含む」じゃないとおかしいと思うんですけれども。

[事務局 道下]

確かに。しかも 2 番がそうしていますね。

(内堀委員)

社員全員って書いてるのに。かっこしてわざわざ。

[事務局 道下]

これ、かっこ要りませんね。2番は要りますけど。

(吉村会長)

これは削除していただいて。

[事務局 道下]

削除します。

(内堀委員)

それともう一つ。資料4になるんですけども、全体の方への無作為の文での、8ページの出産・育児についてのところで、問26と問27の違いがよく分からないんですけども。問27をするのであれば、問26は別に必要ではないように思うんですけども。問26の4番の『子育てを手助けしてくれる人が居ない』というのが、問27では『子どもがのびのび育つ環境ではないから』に変わってるんですけども、変わっているっていうか。他は大体同じようなこと書いてあるのに、ここがどうして、こういうふうに変えているのかしらって思ったんですけども。

[事務局 道下]

ということは、26と27とひっつけた形でいいということですよ。どちらかという、27でいいん違うかっていうことですね。

(内堀委員)

はい。私はそう思います。

[事務局 道下]

26の内容と27の内容は選択肢は一緒でもいいんですけども、聞いている方が、理想の子ども数にない人っていう形で聞いているので、確かに、設問の内容は27の設問が26のところにも来たほうがいいかなとは思うんですけども、要は理想と違うかった人を特に聞いているっていうのが27番ですね。何が課題やったんかっていうことなんで。これはちょっとそういう意味では聞かしてもろたほうがいいかなというのはあるんで。

[事務局 今西]

27は多分、過去を振り返る形になるんで。26のほうは将来というか。

[事務局 道下]

も含めて。

[事務局 今西]

答える方からすると混乱するかもというの、おっしゃるとおりかと思う。よく日本語を読むと、振り返ると将来という形にはなっとるのかなと。

(納田委員)

無作為に選んでいらっしゃるの、年齢もいろいろになりますよね。これから、まだ子どもをつくらうという方も居れば、もう高齢で全然子ども関係ないっていうか。

[事務局 道下]

そうなりますね。どっちもありますね。だから、設問は置かしておいてもろうて、中身確かにそういう意味ではこっちの27のほうが多いですもんね。13までありますんで。設問ちょっと全く一緒でいいかっていうのはもう一遍見ますけども、ちょっと選択肢がずれているのは、おかしいかなと思うんで、ちょっと調整しましょうか。

[事務局 今西]

ちょっといいですか。問26はこれ、理想的な子どもを持つてはる方にも聞いているものなので、全員が対象なので。だから、どう思いますかっていう質問なので、理想的な子どもがおられる方も、こうちゃうかっていう考えを聞いているところかなと思います。27は実際に理想の子どもの数が居ない方に現状をお聞きしているところですので。

(吉村会長)

ちょっとそうすると文言を調整したほうがより真意が伝わるかもしれないですね。ちょっと今、われわれの中でも多分認識がずれているという辺りが。回答される方、混乱される可能性がある。

(納田委員)

問26の所は一般的にっていうような意味合いっていうことですよ。

[事務局 今西]

そうですね。だから、それを分かるように書いたらということですよ。

(吉村会長)

27が割と元として、振り返ったときどうだったという、プライベートなお考えということになるんですか。26のほうはもうちょっとより、今の言葉で一般的な話をお聞きするということなんですか。

[事務局 今西]

何ですかというよりは、何かと思いますかというところです。

(吉村会長)

これはだから、一般論としてということですよ。この部分。

[事務局 今西]

そういうことです。

(吉村会長)

個別のお答えを頂戴して対応、平均的な像を知るっていうことにすると、26 がちょっと、今問題数も多いので、もしか削るとするならばというあれだと思うんですけども。

[事務局 道下]

ちょっと設問も考えます。例えば、27 であったら、その理想の子どもに足らなかった人の答えで 10 番とかやったら、不妊症とか、不育症って書いてます。そうなるともう、26 番で何が課題やったんかっていうのでも、やっぱり不妊症、不育症もその対策っていうのも、行政としてやるやつもあるんで、ちょっと設問変えます。やっぱり。27 の分も入れて、26 でも、ちょっと設問の数も違いますので、整理します。

(吉村会長)

出産、育児うんぬんっていうのは、この人口の話にすごい、非常に重要なところかと思えますんで、ちょっとさっきの文言、項目含め、関係、再検討ということで。いかがでございましょうか。

(石川委員)

資料 4 の一般アンケート。自分でこれをアンケート答えようかと思って、ずっとやっていくと、何かちょっとびんとこないのが、『結婚についてうかがいます』の部分。私 50 代半ばですから、例えば、独身ですかって、独身でいったときに、例えば離婚したとかって言えないんですよ。『現在独身、結婚していますか』っていう話ですから、独身ったら、その理由のところ、離婚したという選択がないんですよ。若い人に向けてはこれでいいのかもしれませんが、これをおじさんとか、高齢者が答えるとなると、死別したとか、離別したとかもあるじゃないですか。そうなるはどこに書くのか。いちいち、ここにその他のところに死んだとか、別れたとか書くのも嫌じゃないですか。なんか丸をピってしたほうがいいですよ。そこが気になったのが一つと、『出産・育児について伺います』なんですけど、『あなたは、現在、お子さんが何人居ますか』っていうのは、このお子さんっていうのは何を指しているんですか。自分に娘、息子が居るっていう意味ですか。45 になる息子が居るっていう意味ですか。それともちっちゃい子どもが居るっていう意味なんですか、聞きたいのはっていう感じなんです。私はこれを読んだときに、私にはちっちゃいお子さん居ないなと思っちゃったんですけど。これは、何を聞きたいのかなっていうのがあって。聞きたい人がちょっと誤解するかなと。

(栗本委員)

「現在」が要らないんじゃないですかね。

(石川委員)

現在っていうか、過去からそうなんですけど。現在って書いてるから、ここで現在で、こう思ったわけですね。私の家には子どもが居ない。独立した、どっか行っちゃった。と思って。居ない、書こうかなと思っちゃったんですけど。分析されるときに、この間と年齢のところのクロスでやれるか。これも、ざっくりとした分類になりますけれども。ある程度想定されるような、出題者の意図に合うように。

答える人によって、ぶれるかなって感じ。

[事務局 道下]

確かに分析とすれば、何歳の人ほどぐらいやって、クロスさせないと分析としては出ないと思います。

(石川委員)

ただ、60のおじさんも、もしかして子どもが要る、欲しいと答えるかもしれない。その辺が、なかなか勝手に決められない部分ではある。

[事務局 道下]

その辺は分析能力ですね、こちらの。単純に、現在ってというのが、どうかって言われたら、答えやすいんやったら、『あなたはお子さんが何人居ますか』って単純に聞いたほうがええのかなというのは、今、聞いていて思いましたけど。

(内堀委員)

それで言うと問 29 のお子さんが居る方がお答えになる、出産を機に働き方がどうなりましたかっていうのも、これは例えば男性が答える場合は、妻の出産を機に、男性の自分の働き方はどうなのかって意味なんでしょうか。それとも『妻が出産をして、妻の働き方はどうなりましたか』を聞きたいんでしょうか。どうなのか、ちょっとよく分からないんですけれども、『出産を機にこの回答者の働き方はどうなりましたか』でいいのでしょうか。

[事務局 道下]

われわれ、このところどうしようかなって迷ったところなんです。配偶者の場合もあるんで、それを書こうとしたんやけども、ややこしなるな。

(内堀委員)

そうしたら回答者が女性だけを取って、その中で見るってということなんでしょうか。

[事務局 道下]

ただ、その言われると男女の差をつけるのがどうなのかなっていうのもあって。男のほうが仕事辞めてとかいう場合もあると思うので。

(内堀委員)

分かります。そういうのもあると思います。

[事務局 道下]

だから、どうかなと思って。

(内堀委員)



女性だけであつたら、育児は女性がするという前提の下に質問作っているとなるので良くないと思うんですけども、ただ、回答される側が、どんなふうに受け取るかちょっと分からないなと思って。

[事務局 道下]

一般的に、男性の方で奥さんが出産された場合、答えたら普通に「仕事は辞めていない」っていうのになる方がほとんどやというふうには思うんで、本人にやっぱり元データとクロスさせて分析するっていうことにしかならないのかな。だから、家に聞かれていると思ったら、奥さんは辞めたとか書く人もおるかも分からへんけども、男でそう書かれて、本人が辞めたんか、あるいは奥さんのことを書いているのかとか、その辺はちょっと解釈上、あなたに聞きますっていうふうにはしているんで。その辺、勘違いされるかも分からへんなとは思いますが、基本的には、その人。関係者で抽出して、無作為に抽出したのはあなたですっていうことで、聞かしてもらっていることが大前提かなと考えているんで。区別するのも逆に。

(吉村会長)

分析するとき、ちょっと丁寧にいきたい。ぽこっと単純集計で出して、それで何か読み取ろうとすると、えらい間違いになりそうな、問ではあるなというのが。

[事務局 道下]

分析ではクロスさせてその辺のところは、生かしていかなあかんと思います。

(納田委員)

今の質問のところなんですけど、出産という表現を使うから混乱するんで、子ども出生にしたら。産むのは女性なので、出産となるとやっぱり女性のイメージになってしまうんですけど、『子どもの存在ができることによって、どう変わったか』っていう問い方をすれば。

(内堀委員)

男性の意識もどう変わったかっていうところを聞きたい感じ。

(栗本委員)

『出産を機に』の後にあえて『あなたの』って入れるからちょっと。

(吉村会長)

お伺いします。今の、二つご意見いただいたとすると、『お子さんの居る方お伺いします。出生を機にあなたの働き方はどうなりました』。

(内堀委員)

あなたの、をつけることで回答者に限定する。

[事務局 道下]

間違いませんわね。答えを出すのは。

(吉村会長)

「出生」という表現で女性の方を念頭に置いているわけではない、そういうニュアンスが出て、「あなたの」でさらに限定する。違和感少しありますか。

[事務局 道下]

そうですね。そういう意味では、出産でもいいですよ。出生じゃなくても、『出産を機にあなたの』って。聞いている人はあなたと、あなたですから。分かりました。

(吉村会長) いかがですか、その点、ニュアンスがちょっと。

(内堀委員)

ちょっと出産ていったら、やっぱり女性ってなってしまうかなー。

(吉村会長)

あなたは文章を読み、あなたのという文言よりも女性というほうが強くなってしまって、男性がペンを止めてしまう。

[事務局 道下]

いや、ただ、設問とすれば、出産、育児っていうふうなことで大前提があるんで、ここの項目でも出産、育児っていうことなんで、出産という言葉自身は、僕は問題ないのかなと思うんですけども、ただ、間違えて答えるとか、そういうのがないように、おっしゃったように「あなたの」っていうふうにつけるんやったら、そちらのほうが答えやすいのかなというふうに思います。

(中村委員)

伺います。『あなた、あるいはパートナーの出産を機に働き方はどうなりましたか』っていうのはどうでしょうか。

(栗本委員)

そうすると、また、あなたが変わってくる。

(吉村会長)

出産という言葉、他でも使っているっていうのもございますので、ちょっと出生は気になったっていうことをそこでちょっと入れて、どうなりましたかと。

[事務局 道下]

それで何とかお願いしたいなど。

(吉村会長)

分析の段階で。

[事務局 道下]

悩んだところなんで。

(久保委員)

ちょっといいですか。多分今の年代でも、出産というのが、女性にとって大きく影響するので、そういう話が出てくるはず。この設問の意図が例えば出産を機に女性が働き続けられないという状況があったのかっていう、そういうことを聞きたいのか、何を聞きたいのかがはっきりしていないと、この設問はちょっとまずいんじゃないかな。例えば、われわれの知り合いでも、まだ働きたいけど、働けないという場合もある。これは、やはりちょっと考え直したほうがいいんじゃないかって思います。

もう一点、さっきの年寄りの話ですけど、結婚について伺って、『結婚するつもりがない』と答えているのに、それ以降の設問に答えていくと言うのは非常に苦痛かなと思います。やっぱり、する気はないって言っているんですから、する気を聞いても仕方ないですね。それから、結婚した場合って、する気はないって言っているんですから、答えようがないんですよ。だから、こういうたくさん幅広いというか、やはり、なんと答えた方はこっち、なんと答えたこっちってやっていかないと、結構失礼なこと、聞いちゃうことになりますよ。できるだけ、それを避けるんだったら、順番をきちっと考えていただいて、それで、こっからはきちっとしてもらってというふうにしたほうがいいと思います。どうしても、例えば死別とか、離婚とか、高齢で1人暮らしの年寄りとか、どこ書いていいか分かりませんので、アンケートに答える人の気持ちを少し、配慮したらいいのかなという感じがします。

[事務局 道下]

今、結婚をするつもりはないっていうことで、どこに飛ばそかっていう、話なんですけども、どこに飛んでいったらいいのかなってちょっと見ていたんですけども、いきなり次のページに、『全ての方にお伺いします』のところまで飛ばそうかと。結婚してなくても、『お子さんは居ますか』っていうのもあるかなっていうのはありますんで、ちょっと考えさせてもらいます。

(吉村会長)

先ほどの文言も含めて、この部分、もう一回ちょっと整理させていただくということによろしいですか。

(西座委員)

同じところの一般のアンケートのところ、24と25なんですけれども、24で『今後何人のお子さんをもちたいですか』、語弊があるかもしれないですけど、お子さんを産めないっていう方が中にはいらっしゃると思うんです。なので、ここで、私独身なんで、例えば24を選べば、25も同じような質問に感じてしまうんです。お子さんを産んだけど、もうそんな産めないっていう方に関しては24の質問というのが表現が書けない質問になってしまうと思うんですね。そうであれば、25の『あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか、または、何人でしたか』で一つにまとめられるんじゃないかなっていうふうに思うんですけど、そうすれば質問も減るんじゃないかなと思うんですけども、どうでしょうか。

もう一点が、問の21で、知り合ったきっかけを聞いておられるんですけども、これを聞く意味ってというのが。

[事務局 道下]

きっかけは、行政でいってどこまでできるかはあるんですけど、要は結婚するような先ほどもありましたけども、どういう場を設定すべきかどうかとかその辺のところは、実際、結婚なされた方にはどうやったのっていうのを聞きたいっていう、それだけのことなんですけど。

(西座委員)

そうであれば、もし仮にお聞きになるのであれば、泉佐野市内で出会ったとか。違う所で出会って泉佐野市に来たとか。泉佐野市で出会った方が多いのであれば、泉佐野市の出会いが多かったっていうことになる。分かると思うんで、少なければ、泉佐野市はあんまり出会ってないんだなっていうことが分かる。それやのほうは、まだ、こっちの質問よりはましかなとちょっと思った質問なんですけど。

(中村委員)

行政が結婚相談所やろうかっていうような、聞こえてしょうがないんですけど。

[事務局 道下]

違和感ありますよね。

(中村委員)

あります。やる必要ないじゃないですか。

[事務局 道下]

ただ、いろいろ市も例えば 30 歳の成人式とかって、去年とかやったんですけども、そういったイベント、言うたら、そういう出会いをつくるっていう意味では全然それはなかったんですけども、そういったイベントを通じて、なんかあるんやったら、イベントもやってもええかなみたいなのも出てくるというふうなこともあるんで、選択肢として、ちょっと結婚相談所とかまずいかどうか知りませんが、市として何ができるんやろうというふうなことを聞きたいっていうのが趣旨なんですけど。

(西座委員)

逆に『市にそういうことを期待しますか』という項目を入れる。

(中村委員)

行政がそういうことを。ここにこの、さっき聞いたら『やる必要はない』っていう項目あるからって言われたけど。

(西座委員)

ただでさえ、質問数が多いので。省略してもいいところかなっていうふうには思えるんで。24、25、一つに統一されてもいいのかなって。

(中村委員)

こういうことを聞きたいのなら、これだけを、こういうアンケートじゃなくて、結婚式場に行って、結婚された人にどこで知り合いましたかって聞くのは一番速いと思います。

(吉村会長)

ちょっと 20、21 あたりを一つにできないかとか。あと、今、24、25 というところ、まず一つにして。

(西座委員)

25 で『あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか、また、何人でしたか』というふうにすれば、24 はいらないんですけども。

[事務局 道下]

これ、厚労省の全国統計である項目にもこれがあったから入れてるのかな。結婚とかの。だから、うちの市として要るかどうかっていうのは、20 番聞いたら、『どうやって知り合いましたか』まで要らんといえば、要らんかも分かりませんね。分かりました。21 消します。それから、24、25 っていうのは。

(吉村会長)

全国比較したいとするならば、できるだけ、その項目は残しておいたほうが、比較対照できますので、そこはちょっともし比較対照のためにあるのであれば、多分一つ無理に削るというのも、答える方の心情の部分の、そこ非常に難しいなと思うんですが。

[事務局 道下]

これ、確か、厚労省の全国統計のやつに載っていたなと思うんですけど、この項目で載っていたんかどうかはちょっと確認せなあかん。ただ、この項目じゃなかったら消します。

(吉村会長)

他との比較のために置いているっていうんなら、ちょっと置かしていただくということで、ただ、確かに項目多いですんで、削るべきところは削るようにしてくださいということで、これ全体として。他、いかがでしょうか。

(吉村会長)

そうしましたら、ちょっと時間のほうが巻いておりますので、回収の話ですとか、今の時代との整合性でありますとか、外国人の問題とか、あるいは細かな点で項目数等々といった辺り、非常に多くのご意見を頂戴しまして、あれなんですけれども、先ほどございましたように最終的には 10 月というのがお尻であるというようなことから、やはり先ほど事務局から提案ありました 6 月の 10 日あたりでスタートさせたいということがございますので、ちょっときょう頂戴しましたご意見につきましては、ちょっと急ぎ、私、会長のほうと事務局のほうで調整させていただいて、最終的に一任を頂戴したいと思うんですけど、それでよろしいでございますか。そうしましたら調整させていただくという形で、あと、ご一任いただいた方いうところで、これを持ちまして、承認ということでもよろしゅうございますか。ご意見どうもありがとうございました。

それでは、その他についてでございますけど、事務局のほうからお願いを致します。

[事務局 石橋]

その他としまして、まず、4月30日に開催させていただきました、第1回会議の議事内容につきまして、資料9として、委員の皆さまに事前に送付させていただきました、ご覧いただいているのかなと思いますが、追加や修正等がないかのご確認をさせていただきたいと思います。本日確認させていただきました議事録につきましては、市の情報公開コーナーでありますとか、ホームページ上で公開されますので、修正等ありましたら、お伺いさせていただきますが、特にございませんでしたでしょうか。あらためて見てみて、ここちょっとということでしたら修正もできますので、また、ございましたら、ご連絡いただくっていうことで。

[事務局 道下]

いつホームページに載せる予定。

[事務局 石橋]

週明けには載せようかなと思うんですが。

[事務局 道下]

もし、なんかあったら、ご連絡またいただけますか。

[事務局 石橋]

じゃ、土日見ていただいて、月曜日にはご連絡いただけるみたいな感じでいいですか。ちょっと早いですか。

[事務局 道下]

ちょっと早いんじゃないか。

[事務局 石橋]

じゃ、火曜日ってあんまり変わりませんが、水曜日にアップ。9日までにいただけるということでもよろしいでしょうか。すいません。お願いします。それでは続きまして、今後のスケジュールになりますけども、これは特に私ども事務局のほうの動きになるんですけども簡単にご説明させていただきます。まずアンケートですけども、今日たくさんいただきましたご意見をいろいろお話しさせていただきました。一応調査の末には、6月末を回答の期限としておりますので、あくまでもそれを想定してですけども、7月に入りましたら、そのアンケート調査結果の集計、分析を行ってまいります。また、これと並行しまして、本市の人口動向の分析とか、将来の推計も行いまして、先ほどのアンケート結果を踏まえた上で、今後本市が目指すべき将来の方向性と将来展望を示しました、『泉佐野市人口ビジョン』の素案を策定する予定をしております。ですので、次回の『戦略会議』におきましては、主にはその『人口ビジョン』の素案についてご審議いただくこととなりますのでよろしくお願い致します。その他報告につきましては以上でございます。

(吉村会長)

ありがとうございました。今の説明に関しまして、何かご意見等いかがでございましょうか。それか

ら、次回、『人口ビジョン』等についてご審議いただくということでございますので、よろしくお願い致します。その他全体通しまして、何かございますか。そう致しましたら事務局のほうから次回の開催の予定についてお願いを致します。

[事務局 石橋]

先ほどスケジュールご説明致しましたけども、アンケート結果の分析や人口集計に少しお時間かかりますので、第3回のこの会議につきましては、7月28日、火曜日、時間は午後6時半から会場はここ、この会場で開催させていただく予定をしております。少し期間が空きますけども日程が近づきましたらご案内をさせていただきますので、よろしくお願い致します。なお、資料につきましては先ほども申し上げましたとおり、分析作業をする時間を要しますので、場合によっては資料のほうは間際等になる可能性がありますので、ご理解のほど、お願い申し上げます。スケジュールの説明は以上です。

(吉村会長)

ありがとうございました。『まち・ひと・しごと創生総合戦略会議』を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。本日いただきましたご意見等は、議事録として事務局のほうで取りまとめさせていただきます。また、ご面倒をお掛けしますが、ご確認のほうをよろしくお願い致します。では最後に。

[事務局 道下]

本日はどうもいろいろご意見いただいて、ありがとうございました。

(了)